様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 27 年度
１次評価日（主幹等）	28 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	28 年 3 月 31 日

1 事業名	調査・活用事業	コード	111105

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	ブランド推進室	作成者	両角　加代子

3 事業概要				
目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
	政　策	文化・スポーツの振興	施　策	文化・芸術の振興
	予算科目	調査・活用事業費	業務委託	なし（直営）
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	なし		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		製糸の歴史の散逸を防ぐための調査・研究の実施 養蚕・製糸を軸とした学習活動の実施
目的	対象者	市民及び来館者
	意　図	蚕糸資料の調査・研究及び学習活動

5 事業の実施内容

＊27年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

・フランス式繰糸機の実演：計11回
・わくわくふれあいシルクサマーセミナー:8月9日
・出前講座：計55回
・小中学校等への出前授業（学習支援）：計25回
・カイコふれあいデー：計6回
・養蚕体験：6月～10月カイコふれあいルームにて養蚕
・収蔵資料・寄贈資料の整理：寄贈32件

前年度の課題への対応	・来館者案内との日程を調整しながら、出前講座・出前授業を実施した。

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	25年度	26年度	27年度	28年度（予算）
① 活動指標（指標名）	ワークショップ、出前講座等の開催日数			単位　日
実績値		150	130	
＊指標の説明	ワークショップ、出前講座等の開催日数			
② 成果指標（指標名）	ワークショップ、出前講座等の開催日数			単位　日
目標値		150	150	150
実績値		150	130	
達成度	#DIV/0!	100.0%	86.7%	
＊指標の説明	ワークショップ、出前講座等の開催日数			
＊目標値の設定方法の説明	過去3年間の最大値			

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

区　分	25年度	26年度	27年度	28年度（予算）
① 直接事業費	0	227,271	271,619	430,000
経常経費		227,271	271,619	430,000
臨時的経費				
＊臨時的経費の説明				

区　分		25年度	26年度	27年度	28年度（予算）
② 人件費		0	3,360,000	2,800,000	2,800,000
正規職員の人数（人）			0.42	0.35	0.35
③ 合計コスト（①＋②）		0	3,587,271	3,071,619	3,230,000
前年度比			#DIV/0!	85.6%	105.2%
財源内訳	一般財源	0	3,587,271	3,071,619	3,230,000
	特定財源				
＊特定財源の説明					
④ 活動一単位あたりコスト		#DIV/0!	23,915	23,628	
前年度比			#DIV/0!	98.8%	
⑤ コストに関する補足説明					

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		25年度	26年度	27年度	28年度（予算）
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	#DIV/0!	0.00%	0.00%	0.00%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　**妥当性　高い**

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　**有効性　標準**

評価項目				はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。				1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。				1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。				1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値	前年度比	86.7%		0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値	達成度	86.7%		0

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） ・観光施設としての来館者が増えるほど、調査・研究、学習活動への対応が難しくなる。 ・博物館の知名度が上るほど、近隣（県内）だけでなく、遠方の出前講座・出前授業の依頼が増えてくる。
改善方法	（上記の課題をふまえて28年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ・出前講座・授業を集約するなど、効率的に実施する。 ・年間スケジュールにのっとり、効率的に実施する。 ・市内への対応及び博物館運営を優先する。
改善開始時期	平成28年4月～

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による28年度の優先度 *H26年度施策評価表より転記すること	B